

CONTENTS

- 1 最近のSCOPEの動向
- 2 「第5回評議員会」「第19回理事会」の開催報告
- 3 研究開発助成成果報告会
- 4 洋上風力発電施設の設計・施工、事業者の認証・MWS 取得に向けた体制の整備について
- 5 欧州インフラ事情調査参加報告
- 6 SCOPE 現場訪問
釧路港国際物流ターミナル整備事業
- 7 SCOPEからのお知らせ

SCOPE NEWS

最近のSCOPEの動向

業務執行理事 岩本 卓

洋上風力発電事業者選定の占用公募制度を定めた港湾法の改正から、一年が経ちました。

先行する欧州では、発電効率向上のため機器の大型化が進んでおり、長さ80mのブレード（羽）で9500KWを出力する洋上風車まで現れています。落札価格も5～6円/KWまで下がっているようです。

日本でも、2016年8月に北九州港で、改正港湾法に基づく占用公募制度を初めて適用した公募が行われました。これまでに、「北九州港」「鹿島港」「石狩湾新港」の5港で事業予定者が決定し、多くのプロジェクトが具体的に進展しています。マスコミでも「洋上風力 台湾に外資の風 6.7兆円投資申請（2017.5.30 日経新聞）」や「最大洋上風車に国内技術

の粋 三菱重工、欧州合弁で実用化（2017.7.22 日経新聞）」など、国内外の洋上風力発電に関する記事が増えてきました。

このような流れのなか、SCOPEでは7月1日付で「洋上風力推進室」を設置しました。

同日付で（一財）沿岸技術センターは「洋上風力研究室」を、またSCOPEが事務局を務める洋上風力発電導入円滑化技術研究会にも認証企画室を設け、さらなる導入円滑化や認証等に関する準備を推進する体制を構築しました。

洋上風力発電導入円滑化技術研究会では、8月3日（木）に改正港湾法施工1周年記念講演会を、霞友会館で開催しました。当日は、ひびきウィンドエナジー株式会社取締役の寺崎正勝氏に「北九州港における洋上風力発電事業の計画」を、株式会社常陸製作所 新エネルギーシステム本部チーフプロジェクトマネージャーの松信隆氏に「鹿島港における洋上風力発電事業の計画と欧州先行例」を、同研究会認証企画室の山下篤氏より「洋上風力発電事業の認証及びMWSの企画について」を、それぞれ講演いただきました。当日は、定員を大幅に上回る参加があり、内容も具体的な事例を扱ったものであったことから、好評でした。

以下、SCOPEの最近の動向と当面の予定についてご報告します。

1. 公共調達講演会

7月28日に第39回公共調達を考える講演会を開催しました。講師に上智大学大学院法科研究科教授の楠茂樹氏をお迎えし、「公共調達と競争政策：最近の展開」と題し、競争の適切なあり方という視点から、公共調達改革の二つの潮流、東京都の改革、独占禁止法とその周辺等につき、ご講演をいただきました。

2. 港湾施設の維持管理実務技術研修

SCOPEでは平成25年度より、港湾管理者や民間事業者の管理者、コンサルタント等に対して、維持管理に関する最新の動向や技術のノウハウを提供する実務技術研修を開催しています。本年度は、9月21・22日に横浜港で、11～1月頃に博多港で、それぞれ開催します。詳細は、HPをご参照下さい。

3. 電子納品講習会

5月15日～6月8日の間に全国10会場で電子納品講習会を開催し、475名の参加がありました。工事帳票管理システムは利用開始から15年が経過しているため、アンケートを実施し、いただいたご要望・ご意見等は今後の運営に反映していくこととしました。



「第5回評議員会」「第19回理事会」の開催報告

総務課長 木崎 朋弘

平成29年度最初の評議員会を6月22日（木）尚友会館8階の会議室で開催しました。

午後3時に始まった評議員会では、まず始めに当センターの中尾理事長から挨拶があり、その後来賓としてご出席いただいた国土交通省大臣官房技術参事官の津田様ご挨拶の後、事務局より定足数確認の報告が行われ審議が進められました。「平成28年度事業報告・決算報告」他3件が審議され承認されました。その他として「平成29年度事業計画・収支予算」他を報告いたしました。内容は以下のとおりです。



【審議事項】

第1議案「平成28年度事業報告及び決算報告について」 （第18回理事会承認案件）

は、全員異議がなく原案とおり承認されました。

1) 「平成28年度事業報告」について

審議内容はSCOPE NEWS53号、「第18回理事会」の開催報告ご参照

2) 「平成28年度決算報告」について

審議内容はSCOPE NEWS53号、「第18回理事会」の開催報告ご参照

第2議案「理事・監事の選任について」

第18回理事会において審議され、本評議員会に推薦する再任理事候補者7名、再任監事候補者2名について、全員異議がなく原案とおり承認されました。併せて、非改選理事・監事についての報告をいたしました。

再任 理事：中尾 成邦、岩本 卓、大野 正人、縣 忠明、

大橋 正和、大本 俊彦、松田 英三（7名）

再任 監事：稲村 肇、前田 博（2名）

非改選理事：岩崎 三日子、江河 直人（2名）

第3号議案「評議員の選任について」

評議員任期満了に伴い、次期評議員の選任をいたしました。新評議員は以下のとおりです。

【評議員】

磯部 雅彦（再任） 奥田 剛章（再任） 尾田 俊雄（再任）

善 功企（再任） 中村 英夫（再任） 吉野 源太郎（再任）

廻 洋子（新任）

小林 潔司（非改選） 角田 光男（非改選）

大谷 鮎子氏は退任されました。

第4号議案「役員及び評議員報酬等並びに費用に関する規則の一部改正について」

審議内容はSCOPE NEWS53号、「第18回理事会」の開催報告ご参照

【主な報告事項】

第17回理事会及び第18回理事会において承認された、次の3件を報告いたしました。

○「平成29年度事業計画及び予算」について

○「公益目的支出計画実施報告書の件」について

○「平成29年度収支予算」について

引き続き午後5時より第19回理事会を開催し、次の2議案が審議され承認されました。

第1号議案「理事長及び業務執行理事の選任の件」

第2号議案「専務理事及び業務執行理事の業務分担に関する件」

では、第5回評議員会で再任された、中尾理事長を理事長・代表理事、岩本理事及び大野理事を業務執行理事に選任することについて提案され、採決の結果、全員異議なく提案どおり選任されました。なお、岩崎専務理事及び江河業務執行理事には変更はありません。

第1号議案・第2号議案で承認された、常勤理事の役割分担は以下のとおりです。

【常勤理事及び役割分担】

理事長（代表理事）中尾 成邦（経営全般）

専務理事（代表理事）岩崎 三日子（組織運営全般）

業務執行理事 江河 直人（建設マネジメント研究所、調査部、システム部担当）

業務執行理事 岩本 卓（財務会計担当）

業務執行理事 大野 正人（経営企画部、技術支援部、災害対策支援、安全推進担当）

第3号議案「役員候補者審査会の委員の選任について」

廻洋子氏が当センター評議員に就任したため、役員候補者審査会の外部有識者として、大谷鮎子氏の選任について、審議した結果、全員異議がなく原案とおり承認されました。委員は以下のとおりです。

縣 忠明（非常勤理事・再任） 稲村 肇（監事・再任）

近藤 俊雄（外部有識者・再任） 大谷 鮎子（外部有識者・新任）

評議員会及び理事会の開催にご協力いただきました関係者の皆様に感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。

研究開発助成成果報告会

建設マネジメント研究所 研究主幹 伊藤 晃

6月21日に、「研究開発助成（平成28年度実施）成果報告会」を尚友会館8階会議室で開催しました。

当センター岩崎専務理事の開会挨拶の後、20周年記念事業研究開発助成（平成27～29年度）をはじめとして、「施設の健全度評価に関する研究」が3件、「大規模災害発生後の対応に関する研究」、「建設副産物リサイクルに関する研究」、「公共工事コスト縮減対策に関する研究」及び「公共施設の維持・管理に関する研究」が、それぞれ1件の合計8件について、研究者の皆様方に成果報告をしていただきました。

今回報告いただいた研究のテーマは、広範囲にわたっておりますが、いずれも港湾・空港等における喫緊の課題であり、参加いただいた皆様方にとっても大変関心があるテーマだったことから、会場からも熱心な質問が多く出されるなど、有意義なものとなりました。

報告の内容につきましては、これまでの研究成果を含め、当センターホームページの「研究開発助成」の「研究開発助成の実績」に、「概要」、「報告書」、「発表資料」を掲載しておりますので、ご覧下さい。



発表していただいた研究者の皆様、ありがとうございます。来年も本報告会を開催する予定ですので、多くの方々にご参加いただけることを願っております。

【20周年記念事業】



自律型水中ロボットと海底ステーションによる水中構造物の全自動・長期モニタリングシステム

東京大学 生産技術研究所
巻 俊宏 准教授

【課題：施設の健全度評価に関する研究】



栈橋上から実施可能なRC部材の局所振動試験と塩害に対する構造的な性能評価

東北大学大学院 工学研究科
内藤 英樹 准教授



常時微動を用いた臨海部に生じる空洞の検出方法に関する研究

神戸大学 都市安全研究センター
長尾 毅 教授



打撃振動測定によるPC栈橋の損傷モニタリング技術の開発

愛媛大学大学院 理工学研究科
森 伸一郎 准教授

【課題：大規模災害発生後の対応に関する研究】



港湾内係留船舶の津波漂流防止対策に関する研究

日本大学 理工学部 海洋建築工学科
居駒 智樹 教授
増田 光一 教授（発表者）

【課題：建設副産物リサイクルに関する研究】



防波堤耐津波性強化における浚渫土固化体の利用に関する研究

九州大学大学院 工学研究院
平澤 充成 教授
笠間 清伸 准教授（発表者）

【課題：公共工事コスト縮減対策に関する研究】



凝集剤を利用した浚渫土砂処分場の受入容量拡大技術の開発

横浜国立大学大学院
都市イノベーション研究院
早野 公敏 教授

【課題：公共施設の維持・管理に関する研究】



ラジコンボートと画像解析による床版劣化度把握技術の開発

関西大学 社会安全学部
一井 康二 教授

洋上風力発電施設の設計・施工、事業者の認証・MWS 取得に向けた体制の整備について

..... 洋上風力推進室 山下 篤

洋上風力発電の更なる導入円滑化を図るため、(一財)港湾空港総合技術センターは、海上施工安全指針の策定支援、MWS(マリンワランティーサーベイ)の実施のための組織として「洋上風力推進室」を7月1日に設置しました。また、(一財)沿岸技術研究センターは構造設計に係る調査研究の実施、構造基準の策定支援「洋上風力研究室」を設置しました。

これを受け、両室及び(一社)寒地港湾技術研究センターが、一体的にプロジェクト認証やの企画に取り組むため、洋上風力発電導入円滑化技術研究会に「認証企画室」を設置しました。

プロジェクト認証とは

洋上風力発電のプロジェクト認証とは、設計基準、設計、製作、輸送、現地工事、試運転、操業、維持管理などに関して第三者機関がその内容の確実性、信頼性などについて審査、認証を行うものです。ドイツでは全体スコープのプロジェクト認証が義務づけられていますが、国内の洋上風力発電にお

ける認証のあり方、認証範囲などについては今後関係各所との意見交換、協議が必要です。

MWS(マリンワランティーサーベイ)とは

MWSとは海洋工事の安全性、確実性を第三者機関が審査・承認するものであり、欧州の洋上風力プロジェクトにおいては、損害保険会社による工事保険の付保およびプロジェクトファイナンスの組成のための要件とされています。

お問合せ

(一財)港湾空港総合技術センター 洋上風力推進室

TEL: 03-3503-2081 FAX: 03-5512-7515 (担当: 山下)

(一財)沿岸技術研究センター 洋上風力研究室

TEL: 03-6257-3702 FAX: 03-6257-3707 (担当: 岸)

洋上風力発電導入円滑化技術研究会 認証企画室

TEL: 03-6257-3702 FAX: 03-6257-3707 (担当: 岸)

欧州インフラ事情調査参加報告

..... 調査部 上席調査役 荒木 英二

(一財)みなと総合研究財団(WAVE)及び(一社)建設コンサルタツツ協会(JCCA)が合同で開催する欧州インフラ事情調査(6月10日~6月20日)に江河理事と私2名で参加してきました。この調査は中村英夫東京都市大学名誉総長を団長に総勢30名にて、欧州の都市整備、港湾施設、クルーズ船施設、河川流域の施設等の調査を行ってきました。

1. 訪問地およびスケジュール

訪問国	都市		訪問日
スウェーデン	(1)	マルメ	6月10日、11日
デンマーク	(2)	コペンハーゲン	6月11日、12日
ドイツ	(3)	リューベック	6月12日
	(4)	トラベミュンテ	6月12日
	(5)	ハンブルグ	6月13日
	(6)	ゴスラー	6月13日
	(7)	ライプツヒ(旧東)	6月13日、14日
	(8)	ドレスデン(旧東)	6月15日
チェコ	(9)	プラハ(旧東)	6月15日、16日
ドイツ	(10)	レーゲンスブルク	6月16日
	(11)	ミュンヘン	6月17日
	(12)	シュタルンベルク	6月17日
クロアチア	(13)	ザグレブ	6月18日、19日



2. 調査内容の抜粋

- (1) 【マルメ】マルメ中央駅、世界最大規模コムックス造船所跡地の再開発状況他【マルメ～コペンハーゲン間】オーレスンリンク（デンマークとスウェーデンの間の約15kmの海峡を「沈埋トンネル+人工島+橋梁」でつなぐ施設）



オーレスンリンク（橋梁部と人工島部）

- (2) 【コペンハーゲン】ラングニアクルーズターミナル、コペンハーゲンマルメ港湾会社（CMP）訪問他。CMPはデンマークのコペンハーゲン港とスウェーデンのマルメ港を一体として開発・運営をして行くことを目的として設立された会社で国を超えてクルーズ船用の埠頭の増設・運営の他、貨物を含む港湾全体の運営を行っている。



CMP訪問



ラングニアクルーズターミナル

- (3) 【リュウベック】バルト海沿岸におけるドイツ最大の港（河川港）。中世の雰囲気をもつ旧市街地は世界遺産として歴史的建造物が残る。
- (4) 【トラベミュンテ】リュウベックのトラヴェ川のパルト海河口部地区で、海の少ないドイツの貴重な保養地となっている他、140m以上のクルーズ船は河口に位置する埠頭に寄港し、それ以下は上流のリュウベックの埠頭に寄港する海運の要所。
- (5) 【ハンブルグ】7月にG20サミットが開かれたハンブルグは、北海に河口を持つエルベ川を約100km入った港湾都市でドイツ第2位の都市。コンテナ埠頭を再開発したクルーズセンターアルトナを公式訪問した。エルベ川沿いの堤外に位置するハーフェンシティ地区は水辺に親しむ都心というコンセプトは維持しつつ洪水対策を行っていた。

- (6) 【ゴスラー】銀を産出する皇帝直轄領として歴代皇帝・王の居留地が置かれた都市で、美しい木組装飾が続く家並みが続く旧市街は、都市遺産として保護が図られていた。壁も屋根も薄い石瓦で覆われているのが特徴的であった。
- (7) 【ライプツヒ（旧東独）】ドイツ再統一後、町並み修復や再開発、芸術文化の再興がなされ、大きな企業進出が目立つ。かつての多数の褐炭の露天掘りの跡地を湖に変えるプロジェクト「ノイゼーラント（Neuseeland=新しい湖水の地）」の結果生まれた風光明媚な新湖水地方を創出していた。
- (8) 【ドレスデン（旧東独）】戦後復興、再建されたフラウエン教会など再建プロジェクトにより多くの建物が再建されている。年月が経つと黒くなる砂岩で造られた宮殿、城壁、橋などが特徴的。エルベ川河道の直線化工事により洪水が短時間で到達する様になったため、氾濫原の再生プロジェクトが実施されている。
- (9) 【プラハ（チェコ）】プラハ城他、戦禍を受けなかった世界遺産地区が多数ある。世界遺産に指定される旧市街地区の洪水対策は移動式の特設堤防で防護するというので、石畳が目立たないように堤防設置用の設備が埋め込まれる等している。
- (10) 【レーゲンスブルグ】ドナウ川とレーゲン川の合流近くに位置する水上運輸の要所で、中州を中心とする世界遺産地域はレーゲンスブルグ都市デザイン指針により修復されている。（石畳の丸石も使い方も規定）
- (11) 【ミュンヘン】ミュンヘン中央駅、車中より交通事情等視察
- (12) 【シュタルンベルク】ミュンヘンから南西25kmに位置するシュタルンベルク湖北端の都市。自然に囲まれた保養地、高級住宅地を形成し、環境保全に対する意識が高い。
- (13) 【ザグレブ】日本大使館、滝口大使を表敬訪問し、クロアチアの国情やザグレブの発展状況等についての説明を受けた。



クロアチア大使館にて

3. 調査に参加して

調査団は、港湾、河川、道路、橋梁、交通、都市など多様な専門分野を有する技術者で構成され、調査出発前にとりまとめた厚さ2cmにもなる事前報告書をもとに、移動中のバス内で報告・質疑を行ってから現地を視察するというのを毎日繰り返し、ハードで内容の濃い調査となりました。調査に参加して、日頃目にしない文化、価値観といったものを目のあたりにし、井の中の蛙ではいけないということ、良いものに触れ、その源泉となる歴史や文化を考えることが大切であること、日本に取り入れることができるものが、まだまだたくさんあるといったことを感じるよい機会になりました。

—国際バルク戦略港湾として効率的な輸送のために—

釧路港国際物流ターミナル整備事業

【お話を聞いた人】

北海道支部

調査役 太田榮持さん

テクニカル・エキスパート 長谷部郁朋さん

テクニカル・エキスパート 阿部功さん

テクニカル・エキスパート 富田昭夫さん

【DATA】

釧路港（国際バルク戦略港湾）国際物流ターミナル整備事業

整備内容：岸壁（水深14m）300m

泊地・航路（水深14m）25.9ha

荷役機械（補助）アンローダ2基

事業期間：平成26年度～平成29年度

事業費：約182億円

水深14m岸壁ジャケット据付

北海道の太平洋側東部にある釧路港は、有数の酪農地帯で食料供給基地でもある東北道道を背後に抱え、物流拠点として重要な役割を担っています。昭和26年に重要港湾に指定され、平成23年には穀物の国際バルク戦略港湾に選定。これを受け、家畜の飼料となるトウモロコシなどの穀物を安定的に、かつ安価に大量一括輸送することを目的として、平成26年から国際物流ターミナルの整備事業が着手されました。

乳牛の飼料となるトウモロコシは、主に北米からパナマックス船で輸入されています。現在、穀物輸入の拠点となっている釧路港第2埠頭は、満載で入港するには水深が浅いため、積載量を減らさないと入港できず非効率な輸送を強いられています。この問題を解消するため、現在、水深14mの岸壁を整備する工事が行われています。

今回は、この整備事業が実施されている釧路港西港区を訪ねました。

岸壁にはジャケット式栈橋構造を採用

整備事業が行われている水深14m岸壁は、第2埠頭岸壁の沖合150mに建設

【西港区】



中です。主な施設は、本体岸壁300mと既設岸壁（第2埠頭）に接続する取付部150mで構成されています。

「SCOPEでは、平成28年から整備事業の監督等補助業務を行っています。昨年度は取付部の上部工と標準部のジャケット据付、泊地と航路の浚渫土砂の陸揚げ運搬捨て土に関する業務にあたりました」（調査役 太田さん）

岸壁は、工期を短縮することができるジャケット式栈橋構造が採用されています。

「ジャケット式は、4本1組の鋼管杭にジャケット形式の本体を設置する構造です。管理において重要なのは、鋼管杭の打込み位置です。ジャケット本体の設置時のクリアランスは1本当たり15cmですが、4本

を別々に打ち込むためジャケット据付時に影響が出ないように打設位置を管理していく必要があります。取付部及び標準部の鋼管杭の打込みに関しては、直轄の施工管理となっています。SCOPEの役割としては、打込み完了後の出来形検査を担当しました」（調査役 太田さん）



水深14m岸壁ジャケット



ジャケット据付後



床版ブロック製作ヤード



CFRP床版



土砂処分場

RC 床版・CFRP床版の施工管理

今年度の岸壁整備事業は、ジャケットの上部に施工されるRC（鉄筋コンクリート）床版とCFRP（炭素繊維複合材ケーブル）を用いたコンクリート床版(以下、CFRP床版)の製作、ジャケット据付を行っています。

「塩害を防ぐため、RC床版、床版の連結に使用する鉄筋には、エポキシ樹脂塗装をしています。また、荷役機械の基礎部分となる床版には、炭素繊維複合材ケーブルを鉄筋代わりに使用した、CFRP床版となっています。RC床版は現地製作、CFRP床版は3分割した形状で、工場製作されています。CFRP床版は、現場に搬入された後、3部材を緊張材で連結する、PC（プレストレスト・コンクリート）工法で連結していま

す。PC工法は、RCよりも強度が高く、ひび割れが発生しない性質を持っています。緊張材には、炭素繊維複合材ケーブルを使用しており、塩害に対しての配慮がされています」（TE 阿部さん）

RC床版の製作、CFRP床版の連結は、3箇所のヤードで実施されています。

「製作する床版に台形型の物がありますが、これは、ジャケット上に床版を設置した後、床版間に間詰コンクリートを打設する際、密に配置された鉄筋を施工するためのスペースを広くとるため、このような形状になっています。SCOPEの役割としては、RC床版製作での鉄筋組立寸法、製作寸法の確認、CFRP床版連結時のストレスの確認、床版間の間詰めにあつた鉄筋の配置の確認など、設計図書とおりに施工されているか確認しています」（TE 長谷部さん）

土砂が運び込まれていました。

「浚渫土砂は非常に柔らかいため、土砂処分場に運搬するときには、土砂が漏れないよう密閉型の特殊なダンプを使っています。ただ、陸揚げ後、時間がたつと土砂の水分が抜けるため、土砂処分場での作業性を考慮して、施工者は、重機でかき混ぜるなどの工夫をしているようです。使用する特殊ダンプは全部で25台。積み込み後や運搬後のダンプは、道路を汚さないように水で洗浄します。冬場は水が凍ることもあるので大変な作業ですね」（TE 富田さん）

水深14m岸壁の整備事業は今年度中に完成が予定されています。大水深の岸壁が整備されることで、パナマックス船が満載で入港できるようになり、効率的な輸送の実現が期待されています。



エポキシ樹脂塗装鉄筋

浚渫土砂は特殊ダンプで運搬

また、昨年度に引き続き、土砂処分場の関連工事の管理も担当しています。浚渫土砂は大量に発生するため、陸揚げしてから特殊ダンプで処分場まで運搬します。取材した揚土岸壁では、泊地・航路で浚渫した



揚土岸壁

－現場からの声－

■調査役 太田 榮持さん

釧路港を担当する技術者は、釧路空港を含めて4人体制で業務にあたっています。釧路地方は年間を通じて平均気温が低く、夏は濃霧、冬は氷点下となり風浪が厳しい寒冷地です。そのため、夏は作業服の上に霧対策用の作業着を着用し、冬は上下の防寒具とインナーズーツを着用して対策しています。また、釧路港は、地震や津波の多発地帯ですので、情報を素早く得るために防災ラジオを執務室に配備して、緊急時に備えています。工事においては、水深14m岸壁で使用するRC床版は、据付時に正確な精度が求められるので、特に注意して品質管理等の業務を行うよう、各担当技術者に指示しています。

■監督等補助業務担当技術者 長谷部 郁朋さん

現在、バルク工事は、ジャケット本体製作・据付工事と上部工床版工事、浚渫工事の工区を同時に施工しています。監督等補助業務の対象となる工事は、施設前面の泊地・航路浚渫を含む8工区です。業務においては発注者の設計意図をくみ取り、構造物の重要ポイントを自分でイメージし、施工の管理を実施するように心がけています。発注者・工事受注者・監督等補助業務の担当者が一体となって、工期内に無事故で完成することができるよう日々の業務を行っていききたいと思います。

People who create port and airport.



写真左から、富田さん、長谷部さん、阿部さん、太田さん

VOICE
— 利用者の声 —

釧路西港開発埠頭株式会社

代表取締役社長 米谷好晃さんにお話を伺いました。

「酪農家にとって、質のよい製品をいかに供給できるかということが、今後ますます重要になります。そのためにも外国から輸入されるトウモロコシなどの飼料を、コストを下げた大量に輸入し、酪農家に安価な飼料を供給できるような仕組みが重要です。現状の釧路港では水深が浅いため、パナマックス船が満載の状態では入港できず、他の港で下ろして喫水を調整しています。水深14mの岸壁が完成すれば北米から直接、釧路港に入港できるので、早く、大量に受け入れられますし、釧路港に降ろした後、残った分を他港に運ぶということもできるようになるので、とても画期的だと思います。」

現在はバースそのものが港湾管理者の管理ですが、バースの調整などは行政の許可が必要ですが、今後は私共が担当することになります。整備が進められている岸壁はバルク用の作業エリアとして認定を受けていて、運営も私共が特定事業者として許可をいただいています。大規模修繕など国や市にお願いしないといけない部分もありますが、維持管理で発生する小規模なメンテ

ナンスは、要望を聞いてうちから民間業者に発注してすぐに対応できます。機械が止まってしまうと船が入って来ても何もできません、コスト高にもなりますので、不都合があった場合はすぐに修理して稼働できるよう

にしたいですね。港を利用するサイロ事業者さんなどに安定的に安価で供給できることが可能になれば、将来の計画の見通しもできます。運営するにもとても効率的だし、それを買う側の酪農家さんも、値段も安く十分に供給がされるという安心感が生まれるのではないかと思います。今後、実現に向けて様々な要望やそれに対応するための課題も出てくると思いますが、前向きな課題解決に向けての土台ができあがるのではないかと期待しています」



取材・文：(株) ホライゾン

SCOPE からのお知らせ

◆ 平成 30 年度 研究開発助成公募のご案内

(一財) 港湾空港総合技術センターは、港湾分野及び空港分野における技術研究開発と開発技術の普及を目的に、平成13年度に研究開発助成制度を創設しております。当制度により、港湾、海岸及び空港の建設・維持管理事業の発注及び施工に係る技術及びシステム等に係る研究課題を対象に、大学、高等専門学校及びこれらに付属する機関等の研究者及び研究グループ、又は原則として法人格を有する民間企業等の研究者及び研究グループ等が行う研究開発に対して助成を行っております。

【助成金額、期間及び件数等】

1. 助成金額：200 万円以内 / 件
2. 助成期間：1 年間
3. 助成件数：5 件程度
4. 公募締切：平成 29 年 11 月 30 日 (消印有効)

例年通り9月中旬より募集を開始する予定です。募集内容の詳細は、当センター HP に掲載いたしますのでご覧ください。

皆様のご意見ご感想をお待ちしております。



一般財団法人 港湾空港総合技術センター

U R L : <http://www.scopenet.or.jp>

本 部 : 〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3 - 3 - 1 尚友会館 3 階

代 表 T E L : 03-3503-2081 F A X : 03-5512-7515

※ 本誌は、環境にやさしい大豆インクで印刷しています。